

架け橋となって

沖縄県立普天間高等学校
三年 嘉数 夕海

ポツリ。

雫が身体からだに触れる雨

梅雨の雨が沖繩の大地に降り注ぐ

「今日も雨か」

家から出られない子供たち

黒く、光る、爆発する雨

爆弾の雨が沖繩の大地に降り注ぐ

「怖い、助けて」

壕から出られない住民たち

六十七年前

爆撃という名の大雨が降った

雲行きなんか分からない

戦争という名の台風が来た

この小さな沖繩が台風の目となる

銃と 敵と 爆弾とともに停滞する

人々は 「晴れる晴れる」 と願うように

黒い恐しい雨が上がるのを、

息を殺してずっと待った

そして

遺産を、愛する人を、沖繩そのものを

もつともつと

たくさんのものを犠牲にし戦争は去って行った

あの日から月日が流れた今

学校に、道に、大きく鳴る雷

飛行場の戦闘機の爆音が、基地のへりの爆音が

沖繩の大地に降り注ぐ

「うるさい、声が聞こえない」

窓を開けない私たち

今も昔も 沖繩に太陽が見えない

まだ 平和の日差しは当たらない

梅雨が開ける